

H22年11月24日（水）
12：10～14：10

第36回全史料協全国（京都）大会公開事業

資料保存 ワークショップ

京都府民総合交流プラザ

京都テルサ

3階 第2会議室

参加自由（事前申込不要・無料）

記録資料を保存し続けるためには、保存環境整備、処置修理などのメンテナンス事業が必要です。しかしながら、こういった事業に関する情報はさほど多くはなく、敷居が高いのも事実です。特に処置修理ともなれば、費用もかかり、なにが必要でどこまでやれば十分なのかは本当にわかりにくいと思います。そこで、保存修理事業の全体像を少しでも理解していただけるよう展示＋ワークショップを企画しました。

関西に本拠を置き（全国的に）活躍されている5団体がそれぞれの仕事や事業を紹介しつつ、保存修理事業は、「どういう順番で」「何を考えて」「何をしなければならないのか」という全体像を理解しやすいように構成しました。一部作業体験もできます。

1. 現状を把握する＝素材・構造・損傷を調査する。
→観察と機器分析＝見た目だけでは判断できない？
2. 保存方針を立てる＝現状を評価し（どの程度危険・緊急か）、今後の活用を考慮する。
→京都府行政文書の保存修理事業＝身代わりと事業仕分け？
→水損史料の救済＝災害にあったらどうしますか？
3. 作業＝応急暫定処置・保存修理・保存環境整備
→処置の種類と選択＝道を間違えると大変なところへ行ってしまうかも
→ガラス乾板の保存＝もてあましていませんか？
4. 事後評価・経過観察
→次に備える＝経年後、振り出しに戻る？

【企画協力団体】

財団法人 元興寺文化財研究所
一般社団法人 国宝修理装コウ師連盟
歴史資料ネットワーク
京都府立総合資料館
京都造形芸術大学
日本庭園・歴史遺産研究センター